

ピーマン栽培における新しい天敵利用技術

【研究のポイント】

近年、化学農薬の削減や薬剤抵抗性害虫の対策として、天敵を利用した害虫防除が行われています。特にピーマンは天敵との相性が良く、ハウス栽培において天敵の利用が進んでいます。しかし、天敵の利用にはコツが必要であるため、病害虫対策チームでは天敵を簡単かつ効果的に利用するための研究を行っています。

①市販天敵の利用

ピーマンの害虫のアザミウマとアブラムシの防除のために、天敵であるスワルスキーカブリダニとナミテントウ幼虫を放しました。その結果、化学農薬を使用せずに害虫を防除することができましたが、天敵が減少しないように定期的に放す必要があります。

スワルスキーカブリダニ



ナミテントウ幼虫



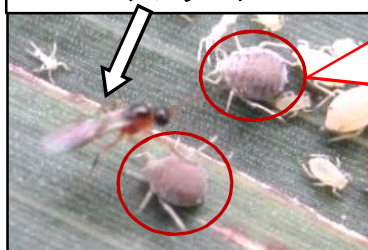
②天敵を維持するための植物の利用

天敵を維持するためにハウス内にソルゴーを植えると、アザミウマの天敵であるヒメハナカメムシや、アブラムシの天敵であるアブラバチが増加し、害虫を防除することができました。ただし、ソルゴーの栽培管理に手間がかかります。

ヒメハナカメムシ



アブラバチ



アブラバチに卵を産み付けられた

③次世代型バンカー(保護植物)キット

現在、天敵維持のための植物管理を簡素化するために、天敵と植物を組み合わせた次世代バンカーキットのプロジェクト研究を行っています。

このバンカーキットを使用する事で現在の天敵利用の方法より安定した効果が期待できることから、早期に市販化するための実証試験に取り組んでいます。

次世代型バンカーキット



【生産者の声】

今年は天敵のおかげでアブラムシ、アザミウマに殺虫剤を一回も使用しませんでした。これからも天敵を利用していきたいと思います。
(大分県農協ピーマン生産部会竹田支部 入田慎太郎氏)



【連絡先】

担当: 農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫対策チーム
TEL: 097-28-2078
住所: 大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8